

放射性物質はすでに私たちの体内にまで浸透している 福島第一原発を考えよう！

3月11日14時46分、誰しもが忘れることのできない大災害が発生しました。「東日本大震災」です。死者、不明者合わせ約28000人を超え、命と生活の基盤すべてを呑み込んでしまいました。JR総連は被災された皆さんに、心からお悔やみと、お見舞いを申し上げます。

東日本大震災発生以降、ショッキングな事態が続いています。4月下旬、「母乳からも放射性物質が検出された」と報道され、厚労省は実態調査に乗り出しました。また、政府は、今回の事故がIAEA（国際原子力機関）の基準で原子力事故の最高値である「レベル7」であることを認めています。今も多くの被害を出し続けているチェルノブイリ原発事故と同じレベルであり、今後想定される被害はそれ以上ともいわれています。そして、原発地域の住民は「地震、津波、原発事故、風評被害」の四重苦に悩み苦しんでいます。今後、放射能汚染が人体をはじめ多くの影響を及ぼしかねないことは現実のものとなったのです。このままでは、将来、子どもたちに背負いきれないリスクを負わせることになるのは明かです。

また、この事故の影響は、原発近辺にとどまらず、「見えない恐怖」と「生活・環境破壊」を引き起こし、震災の被害をさらに拡大しています。その被害は、事故発生から一ヵ月以上たった今も収束するどころか悪化の一途をたどっています。

原発推進派がこれまでの主張してきた原子力発電所の「安全神話」は偽りであることがすでに明らかになっています。この被害実態をまえにして、誰が「原発は安全」と言えるのでしょうか。現に多くの心ある原発推進派の研究者・技術者は自らの行為への後悔と反省を表明しているのです。

この間、原子力問題に対し、必ずしも十分な議論がなされてきたとはいえません。資源のない日本には「水力発電や火力発電に代わる代替エネルギー」が必要として、原子力開発が盛んに進められ、その恩恵を受けてきたのも事実です。日本は、世界唯一の被爆国でありながら、今や、世界第三位の原発国になり、多くの分野において原発依存は尽きることなく進められてきたのです。

いまこそ、「福島第一原発事故」を契機に、この原発問題に真正面から向き合う必要があります。私たちは起きている現実から目を背けてはいけません。

安全で安心して暮らせる環境を私たち自身がつくりだしていかなければなりません。
子どもたちの未来のために！

2011年4月27日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）